



御礼と感謝

校長 菅原 定志

今年に入り、階上中学校での生活も3年目を終わろうとしていたこともあり、もしかしたら異動になるかもしれないという思いから、残された日々を、楽しく思い出に残るものにしたいと考え、あんなこと、こんなことをやってみたいと思いを巡らしていました。

そのようなとき、新型コロナウイルス感染予防のため、3月2日から学校が臨時休業となることとなり、大きな悲しみと、先が見通せない不安な中、自分自身もこのような長期の臨時休業の経験がないこともあり、生徒とも会うことができず、寂しい毎日を過ごしていました。そのような中、縮小という形ではありましたが、卒業式を行うことができ、3年生を無事に送り出すことができました。3年生にとっては、入試直前・卒業まで残り数日の時の臨時休業で、大変な不安とストレスだったと思います。卒業式の練習は当日の朝だけでしたが、大変立派に卒業していきました。さすが3年生！本当に感心させられました。

そして、25日（水）からは、部活動も再開し、27日（金）には修了式を終えることができ、1・2年生を無事に修了、進級させることができました。生徒の笑顔を見て、うれしさが満開になりました。

生徒だけでなく保護者の皆様には、卒業式はどうなるのだろう、修了式はできるのか、学校再開は・・・とたくさん心配をおかけしたことと思います。私たちも、生徒の様子が気になり、学級担任が2回家庭訪問をさせていただきまし、私物を取りに学校にお出でと声をかけさせていただきました。今回の経験は、中学生にとって、学校が大切な場所であることを再確認できたと同時に、私たち教職員にとって生徒の存在の大きさを実感することとなりました。

さて、私事ですが、この度の人事異動で4月1日から鹿折中学校に異動することとなりました。教員生活もあと2年であり、最後までこの階上中学校にお世話になりたかったのですが、その願いは叶うことはできませんでした。階上中学校で過ごした3年間は、私にとって大きな財産になりました。初めての校長職と言うこともあり、希望と不安が入り交じる中4月1日を迎えたことを思い出します。生徒との出会いは「伝統のエール」。本当に圧倒されました。そして、階上中学校が大好きになりました。一つのこと、真剣に全力で取り組む生徒の姿、この子たちと学校生活を楽しみ、そして「子どもたちが将来大人になったときに必要な生きる力」を身に付けさせてあげたいという気持ちがわいてきたことは昨日の日のことです。

私自身、何かにチャレンジすることが好きなので、思いついたことはやってみました。小学校の校庭で行った運動会の朝、けが防止のためという口実で、校庭に塩をまき、清酒で清める。これは、運動会のたび行いました。仮設住宅が撤去され、校庭が開放されたときは、部活動に来ていた生徒全員で行いました。生徒たちは大喜びでやっていました。また防災学習に東北大学の佐藤翔輔准教授をアドバイザーとしてお招きしました。地域へのアンケート調査や聞き取り調査をするたびに、佐藤先生は新聞社やテレビ局に「階上中で面白いことをやってるよ」と話していただいたおかげで、テレビや新聞でたくさん取り上げていただきました。さらに、震災遺構・伝承館での語り部活動は、伝承館館長との何気ない話から、やると決めて生徒を募集しました。趣味のゴルフも全くせずに、生徒と伝承館に行くことが楽しくて、楽しくてたまりませんでした。本当は、臨時休業となった期間にたくさんの予定を入れていたのですが、できないでしまったのが心残りです。新たにやってみたいという人も含めて、ぜひ持続させてもらいたいと願っています。

このように、自由に挑戦できたのも、保護者や地域の皆様のご支援があったからこそと感謝しております。本来は、お一人お一人に御礼と感謝を述べたかったのですが、失礼とは存じますがこのホームページで御礼と感謝を述べさせていただきます。これからは、階上中学校を目標に、新たな学校で、新たな子どもたちと挑戦していきます。本当にありがとうございました。